

日販連通信

発行者：日本販売農業協同組合連合会

中塚 敏春

第32号
2011年9月16日 発行

住所：〒151-0053
東京都渋谷区代々木2-5-5
新宿農協会館
電話：03-3375-6399 Fax：03-3375-6637
Eメール：info-agricoop@pearl.ocn.ne.jp

福島県特集号

福島農民連産直農協理事会が日販連加入を議決

福島の農業、復興、除染などに運動と事業で一緒に取り組みましょう。

会員みなさまへ

福島農民連産直農協は福島県全域を区域とする販売、購買の専門農協です。組合員は601人で、7つの産直組織から成り立っています。このうちの「浜通り農産物供給センター」は今回津波と原発被害を受けましたが、160名の最大組織です。

主な販売事業は新婦人産直米と農民連産直米です。米の登録検査機関として11人の検査員が検査しています。特別栽培農産物認証機関として58人の特別栽培生産者を組織しています。本会とは余目町農協の米を斡旋するなど結びつきました(下記福島新婦人のブログ参照)。来年の2月の総会で正式に本会



加入が議決される予定です。

津波による甚大な被害、原発事故での放射能汚染など10年、20年、30年とかかる福島県の復興を本会の運動と事業の大きな柱にしていきます。安心して住み続けられる福島、一日も早い復興に向けて、「農民の心はひとつ」、会員の皆様の大きなご支援をよろしくお願いいたします。

今の飯館村は、南相馬市は

阿武隈山系、森、林、田んぼ、畑、居住地、、、

～国の一大事業で除染を

東京電力福島第1原子力発電所から30キロ以上離れながら、放射線量が高く「計画的避難区域」に指定され、住民全員が避難した福島県飯館(いいたて)村に立ち寄りました。すでに、役場、農協、コンビニや診療所もすべてが閉鎖していました。村には人影は全くなく、県道原町川俣線を車が通るだけでした。



他の自治体と全く違う光景は、黄金色の田んぼが一枚もないことです。すでに田んぼや畑にはセイタカアワダチソウやススキをはじめ草が一面に生えています。「村長は2年で戻りたいと言っていますが、これだけの面積、山の除染をどうやるのかが問題です。阿武隈山系の森、林もすべて除染しないと平場や都市部に川に沿って汚染が続きます。この面積の土壤剥離をしたら、その土をどこに持っていくのか。今年は草ですが、来年には柳や木が生えてきますから、田んぼを田んぼに戻せるかどうか心配です」と案内してくれた福島農民連産直農協の佐々木健洋参事が語ってくれました。

空間線量は最大時の1/10程度になりましたが、場所によっては5～6マイクロシーベルト/時(新宿は0.05)あり、依然として高い数値です。土壤のセシウムは非常に高い汚染が確認されています。

この後、南相馬市の国道4号線を南下しましたが、20km圏内の入口では警察官が通行止にしている、復旧作業は未着手の状態です。国道沿いの大型店は住民の減少などで閉店が相次いでいます。沿岸部は宮城県よりも処理が遅れていて、まだ船が陸地にあたり、車が片づけられていないところもあります。沿岸部では地盤沈下で排水ができず、津波の汚泥が異臭を放っているところもあります。



写真の倉庫は福島農民連産直農協の米を保管していた日本通運相馬開運支店の倉庫ですが、すべて流出してしまい、1km先で流されていた農民連の米袋が発見されるほどの威力でした。



帰りに霊山(りょうぜん)町に立ち寄りしましたが、駐車場で線量計を持った人が警告音を発して「ここは4マイクロシーベルト/時で少し高いですよ」と足早に去っていきました。

「テレビで見た、損害賠償の説明会を開いてほしい」

福島県農民連が一般農家に説明会を開催

9月14日夜に福島県農民連が伊達市保原で「損害賠償説明会」を開催し、10人ほどの桃の生産者が熱心に参加しました。今回の説明会は組合員以外の桃の大型生産者がテレビで農民連の活躍を見て自主的に開催されたものです。伊達市周辺は土壌のセシウムが非常に高いホットスポットが確認されており、生産者は今後の農業について大変心配しています。

冒頭福島県農民連の根本敬事務局長が「損害賠償をなぜ運動としてたたかうか」について説明。「被害にあった人が被害を受けたという声を上げることが大切で、請求しなければ原発事故はそんな小さな被害だったかとなるし、農家は泣き寝入りになる。農民連は委託ではなく、実際に農家が東電に自分で請求することになっている。実際に被害を受けている福島県の多くの農家がこの運動に参加することで、正確な被害規模となり、損害賠償請求ができる」と訴えました。

続いて、福島県北農民連の服部崇事務局長が請求の実務について、耕作証明書、住民票などの証明書や22年産の出荷記録の揃え方、風評被害での今年の損害額の算出方法などを説明しました。

生産者からは「今日の農協の桃の相場での生産者手取りは57円/kgだった。昨年よりも130%の豊作なのに、値がつかず農協の販売額は昨年の不作よりさらに減っている」、「誰も3月、4月に野良仕事はしたくなかった。親父も病に伏したし、桃の木を切って外での仕事の無いハウスいちごに変えようと考えている。この場合桃を切ったら損害賠償はどのようになるのか」、「1㎡3000ベクレルある田んぼの米を検査し



ないで家族で食べれるか、気味悪くないか」など深刻な意見や質問が続きました。

最後に服部事務局長は「損害賠償はこのままではなるべく払わないという東電の思うつぽになってしまう。みんなで力を合わせて勝ち取るものであり、どんなことでも相談してほしい」と訴えました。

根本事務局長は「本当に農家は困っている。米の準産直米を作った時も組合員以外の農家が『農民連が何の組織かわからないが相談に来てくれ』と動き出した。今回も組合員以外の農家で全く同じ動きが水面下で起きている」と語っています。

住宅の丸ごと除染に挑戦

～線量が半減の効果

福島市内で塗装業を営む阿部峰男さんが市内の住宅で塗装の塗り替えを行うので併せての除染効果を見せてくれました。特殊な高圧スプレーで屋根、外壁、ベランダなどすべてを洗浄しました。その結果洗浄前で0.5マイクロシーベルト、洗浄後は0.25マイクロシーベルトと半減したことがわかりました。

阿部さんは「今日は壁がしっかりしているのでやりやすかった。木造住宅では簡単にはできない。木造は瓦が落ちて、雨トヨに汚染された土がたまっている。これをきれいに取り除くのが一番大変」と語っていました。



新婦人福島県本部のブログより

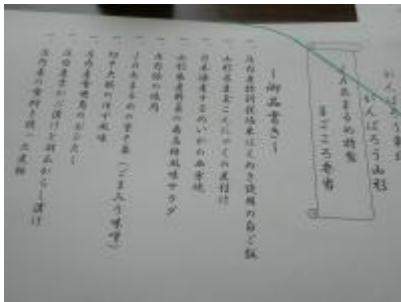
山形庄内“はえぬき”の産地視察ツアーに行ってきました

日本の農業守れ！食の安心・安全、地産地消にこだわって20年続けてきた新婦人と農民連の産直運動。毎年福島県内のお米の共同購入をしてきました。今年も福島のお米が食べたい！でも、小さな子どもも食べることを考えると…いろいろな想いはありますが、今年は放射能の影響の少ない山形庄内産のお米“はえぬき”を供給していただくことになりました。

“はえぬき”の産地山形県庄内地方に行ってきました。



余目町農協センターに到着したら、いろんなところに歓迎のメッセージが♡



特別栽培米はえぬき 庄内産地消弁当🍀 もっちりとした食感のはえぬきと旬の素材たっぷりのお弁当 超おいしかったです♡



安心・安全、人づくり、土づくりにこだわった余目町農協の米づくりなど学習しました。
農業は山形県の基準の半分以下🍀 合併しないでがんばってる余目農協は農家との距離が近くって、農業への熱い情熱を感じました♡
交流で質問する福島農民連のみなさんも熱かった♡



あいにくの雨でしたが、はえぬきの田んぼとカントリーエレベーター（お米を貯蔵しておくところ）を見学。品種ごとにフダがつけてあって、この田んぼは誰のもので、いつ農薬を使ったかなどが一目瞭然✿放射能の値は0.07 マイクロシーベルト/時でした〇〇



風力発電を見学🚗町の方が「風まかせの事業」とっていたのが印象的でした。原発なんていらぬ❌自然エネルギーへ転換いそいで=3



翌日はお天気も回復☀️酒田市の山居倉庫を見学。

余目農協の阿部さん、日販連の中塚さんお世話になりました。おみやげは、酒田米菓のオランダせんべい。
庄内米 100% (ミニマムアクセス米を大量に買っている某新潟の会社とは大違い=3)

今回のツアーに参加して、日本の農業をまもっていかないと同時に、放射能をバラまいて福島
の土壌をよごした東電と原発政策をすすめた国が絶対許せない❌

福島の産直米の復活を願いながら、今年は庄内産はえぬきをひろげよう👉

みなさまのご意見・ご感想をお待ちしております。 アドレス: info-agricoop@pearl.ocn.ne.jp